

# 幼児を対象とした絵譜の活用の検討

## ——コロナ下の家庭における歌唱活動を通して——

佛教大学 白井奈緒

佛教大学 佐藤和順

### 抄録

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、従来の集団歌唱活動が制限された幼稚園において、園での歌唱活動の代替として、親子が家庭で歌を通じた豊かな時間を過ごしてほしいという意図から、各家庭に毎月「絵譜」を配布する取り組みを行った。一年間の絵譜の配布後に実施した保護者対象のアンケート調査及び毎月の絵譜の配布時に添付した保護者からの感想用紙を、SCATの手法（Steps for Coding and Theorization）に基づいて分析した。その結果、保護者は絵譜そのもの、そして絵譜の配布を肯定的に受け止めていたことが明らかとなった。また、絵譜はその題材曲が子どもの興味と一致する場合には、家庭の歌唱の機会を増加させ、豊かな歌唱の営みを提供する一助となり得たことも確認できた。

Key Words：絵譜，歌唱，幼児，家庭，教材

## 1 はじめに

2020年以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大によって、幼児教育現場もこれまでの活動を大幅に制限、変更せざるを得ない状況が続いた。中でも飛沫感染の可能性が高いとされる歌唱活動の制限が、政府から教育・保育施設に要請されたことを受け、仲間と共に歌うことで得られる音楽を共有する喜び等の歌唱活動の本質的意味合いを、どのように担保できるかが、課題の一つであったといえる。

このような状況下で、京都府下の公立幼稚園であるK幼稚園では、園での歌唱活動の代替として、親子が自宅で歌を通じた豊かな時間を過ごしてほしいという意図から、各家庭に毎月

「絵譜」を配布する取り組みを行った。「絵譜」とは、「未分化の児童に対して、楽譜にかわるものを文字や図形等で表現し、音高やリズム楽器の演奏などを感覚的にわからせようとする」（桜井1961, p.26）、いわば絵で描かれた楽譜である。筆者らはこのような絵画性を有する楽譜である絵譜の活用の可能性を保育現場に見出し、保育者養成課程の学生対象の授業で制作し、保育の場で絵譜の教材性・発展性を検討する実践研究に取り組んでいる。なぜなら絵譜は、幼児の音楽的本能を揺り動かす作用を有し（Grüger 1929）、幼児を主体的な歌唱活動に誘う性質を有していると考えるからである。歌の世界観を描出した手作りの絵譜の使用によって、子どもと歌を共有し、その世界に浸ることを目的とした活用法を提案できれば、歌唱活動

に新たな楽しさをもたらす保育教材として位置づけることも考えられる。

そこで本研究では、集団歌唱活動が制限されるコロナ下において、絵譜を子育て家庭に一年間継続的に配布し、幼児、保護者らにどのように受け止められたかを確認し、保育教材としての絵譜の意義や活用方法について検討することを目的とする。

## 2 先行研究の整理

### 2.1 絵譜の日本への導入の背景と現状

本研究において用いる絵譜の定義及び概念を、先行研究を基に整理する。白井・高見(白井・高見2017)によると、絵譜は1926年にドイツの音楽教師ヘリベルト・グリュエガー(Heribert Grüger, 1900-1999)とその弟で画家のヨハネス・グリュエガー(Johannes Grüger, 1906-1992)の兄弟によって考案され、翌1927年に歌曲集 *Liederfibel* (歌の入門書)としてドイツで出版されている。ドイツでは「このシリーズは“成功した現代の絵本”として数々の賞を受賞しながらその後も現在に至るまで出版され続けている」(p.13)。白井らは、この歌曲集に掲載された絵譜の一部は、1947年に日本の小学校音楽科の国定教科書に初めて掲載された絵譜と酷似し、グリュエガーの絵譜の様式が日本に導入されたことを明らかにした。

後に絵譜は、昭和30～50年代頃をピークに低学年児童の読譜の導入教材として日本独自の発展と改良を遂げ、盛んに活用されていたが、現在、学校教育現場ではほとんど使用されていない。その理由として長谷川(2014)は、読譜指導に力点を置く教育現場において、五線譜の移行にこだわりすぎた結果、改良、変遷を遂げた絵譜が、「単に五線譜を読む訓練のための段階的な道具になっており、音楽的な活動のための教材としては意味をなしていない」(pp.63-64)と指摘している。

保育現場での絵譜の使用は、合奏指導場面やピアノ学習教材に時折見られるが、絵譜に関する先行研究や実践例は少なく、その認知度も低い。童謡等の歌唱を目的とした場面での絵譜の使用については皆無に等しい。本研究では、歌唱教材としての絵譜に焦点化し、絵譜を「楽譜にかわるものを絵図で表現し、音高や音楽の仕組み、歌詞の内容、曲の世界観などを感覚的にわからせようとする試み」と定義し、論を展開する。

### 2.2 絵譜の体裁と特徴について

グリュエガー兄弟の歌曲集 *Die große Liederfibel* に掲載されている、日本でも馴染のある童謡「ロンドン橋落ちた」(図1)の絵譜を例に挙げ、絵譜の体裁と特徴について検証する。見開き左ページには五線譜の楽譜とドイツ語の歌詞が掲載されている。左ページの五線譜に記された音符は、右ページの絵譜ではすべて背丈の異なる人物のモチーフに置き換えられている。人物の頭の位置は音高を示し、メロディーラインが緩やかに描写されている。また、四分音符(付点四分音符を含む)を示す人物は緑色の服、八分音符(付点八分音符を含む)を示す人物は赤色、十六分音符を示す人物は青色の服といったように、服の色の違いで音価の違いを区別している。

右ページでは、原曲の言語である英語で歌詞が記されている。歌詞の内容と絵譜を照合すると、冒頭2小節の“London Bridge is falling down,”(ロンドン橋落ちる)の“down”の音価を示すモチーフの真下の橋に穴が開き、“落ちる”という歌詞内容を視覚化している。さらに7、8小節目の“my fair lady (マイフェアレディ)”の歌詞の箇所では、男性が美しい女性を意味する“my fair lady”に花をプレゼントするというシーンを描くことで、歌の一場面を具象的に伝えている。

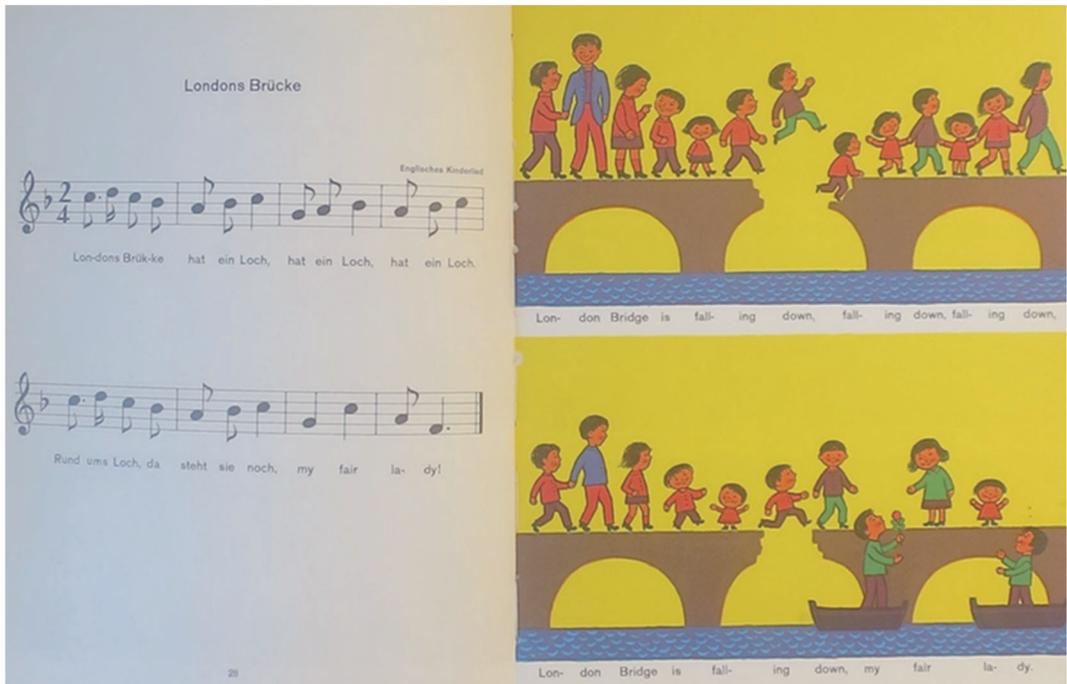


図1：〈Londons Brücke (ロンドン橋落ちた)〉Die große Liederfibel (1977)

このように、厳密性には欠けるものの、音高や音価などの音楽を形作る要素を可能な限り絵に投影させながら、同時に、楽し気に橋を渡る人々の情景描写によって、歌のもつ世界観、歌の躍動感を伝えることを可能にする点が、絵譜の最大の特徴であるといえる。

### 3 絵譜の配布の概要と手続き

#### 3.1 毎月の絵譜の配布の概要

緊急事態宣言下の2020年4月から5月にかけて、K幼稚園はCOVID-19の感染拡大防止の観点から、保育を中止していた。その間、子育て支援を目的とした取り組みを在園児の各家庭にむけて実施した。家庭での親子時間の充実や虐待防止も視野に入れ、具体的には、園児の遊びの確保、教育的視点(5領域・10の姿)を踏まえた保育教材を準備し、園と家庭が郵送でやりとりを行った。この取り組みの表現領域の配布教材として4月、5月に絵譜が同封され、

保育が再開となった6月以降は毎月の園からのお便りとして絵譜を園児に持ち帰らせ、任意で感想を回収した。

保育再開後は、保育室にも同月の絵譜を掲示し、日々の保育と家庭の営みを意識的に関連させる環境構成を行った。各家庭に配布した絵譜は、筆者らの指導の下、保育者養成課程に在籍する学生らが、日本で歌われている童謡の絵譜を作成したものである。約100作品(60曲)の絵譜の中から園長が選び、各家庭に配布した絵譜の曲目は、以下の通りである。園児らはA4サイズにカラーコピーしたこれらの絵譜を筒状に丸めたものを、毎月家庭に持ち帰った。

#### 【配布した絵譜の曲名】

- 4月「はるがきた」
- 5月「ぶんぶんぶん」
- 6月「かえるのがっしょう」
- 7月「しゃぼんだま」
- 8月「うみ」

- 9月「とんぼのめがね」
- 10月「おおきなくりのきのしたで」
- 11月「どんぐりころころ」
- 12月「おしょうがつ」
- 1月「あわあわてあらいのうた」
- 2月「ゆきのぺんきやさん」
- 3月「ちゅうりっぷ」

【配布した絵譜の一例】

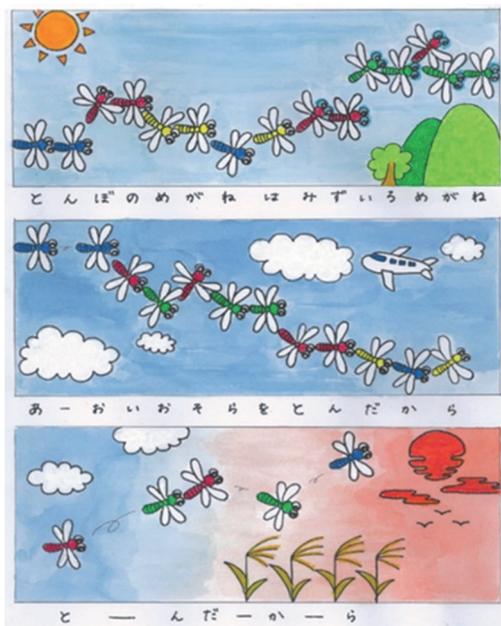


図2：絵譜「とんぼのめがね」(9月)

### 3.2 データの収集について

本研究では、絵譜が子ども・保護者らにどのように受け止められたか、また絵譜が家庭における歌唱活動を増進させ、どのような歌唱の営みを提供し得たかを明らかにするために、在園児の保護者を対象として、2020年度末にアンケートを実施した。併せて、毎月の絵譜の配布時に添付した保護者からの感想用紙を分析の対象とした。なお、アンケート・感想用紙の内容の研究への使用については、保護者の了承を得ている。

## 4 結果と考察

### 4.1 保護者の絵譜に対する受け止め

#### 4.1.1 保護者の絵譜に対する印象について

本研究の最終月である2021年3月に保護者対象のアンケート調査を行った。一年間を通した絵譜の配布が保護者にどのように受け止められていたのかを、5段階評定法による評価結果から分析した。アンケート用紙は3月の絵譜とともに、K幼稚園に在籍する全72世帯に配布された。そのうちの60部を回収し、回収率は83.3%であった。主な質問項目と結果は以下の通りである。

保護者の絵譜に対する印象を、肯定的・否定的な印象を示すそれぞれ8つずつの語群を示し、「『絵譜』についてあなたの受けた印象と合うものを下記の選択肢から選び○をつけてください。(複数回答可)」と質問した。肯定的な印象を示す項目は「かわいい(38)」「イメージしやすい(35)」「楽しい(29)」「親しみやすい(17)」「分かりやすい(17)」「歌いやすい(17)」「面白い(10)」「めずらしい(9)」の8項目で、それぞれ( )内の数字は回答数を示した。

回答から、保護者のほとんどが肯定的な印象を受けており、「歌いやすい」「分かりやすい」といった絵譜の機能性に関する利点よりも、「かわいい」「イメージしやすい」という、いずれも絵譜の絵画的要素から受けた印象が、際立っていることが明らかとなった。「親しみやすく」「分かりやすい」教材として保護者に受け止められた絵譜は、概ね子育て中の保護者を「楽しい」気分させてくれる配布物であったことが明らかとなった。

また、全16項目のうち、否定的な印象を示す語群として「歌いにくい」「分かりにくい」「音楽性に欠ける」「イメージの固定」「絵が不自然」「難しい」「役に立たない」「使い方不明(2)」の8項目を掲出したが、「使い方不明」の2票

を除き、残り7項目はすべて0票であった。なお、「使い方不明」を選択された事例については、アンケートの自由記述欄に、その理由に言及している記述がみられたため、自由記述の分析結果と照査し、後述することとする。

#### 4.1.2 絵譜の配布による保護者の歌唱活動の積極性について

絵譜の配布が保護者の歌唱活動の積極性にどのような影響を有しているのかについて明らかにするために、「絵譜の配布によって、あなたがお子さんに歌ってみようという気持ちが高まりましたか」という質問を行った。以下のような回答が得られた。

「非常にそう思う」20.0%「そう思う」56.7%と答えた保護者の割合は76.7%であり、絵譜が約8割の保護者の歌唱活動に向かう積極性を高める一助となり得たことが確認できた。

#### 4.1.3 絵譜の配布による親子間の歌唱頻度の増加

絵譜の配布によって実際に親子間の歌唱頻度が増加したかについて明らかにするために「絵譜の配布によって親子間で歌う機会（回数）が増えましたか」という質問を行った。結果は図3の通り「非常にそう思う」6.7%「そう思う」

50.0%であり、半数を超えるものが絵譜の配布により親子間の歌唱頻度が増加したと回答した。これにより、絵譜が子育て家庭の歌唱の営みを助長するツールとなり得たことが確認されたが、一方で「どちらでもない」26.7%「そう思わない」15.0%との回答も一定数確認された。そこで、増加が確認されなかった保護者に対して、『親子で歌う機会が増えなかった理由について、あてはまる回答を選んで数字に○をつけてください（複数回答可）』という追加の質問でその理由を問い、歌唱頻度の増加につながらなかった原因の検討を行った。回答は以下の通りであった。

①子どもが興味を示さなかった(10)、②流行りの歌ではなかった(2)、③あなた(保護者)が歌を歌うのが苦手(0)、④仕事や家事で忙しい(4)、⑤家庭内で歌を歌う習慣がない(1)、⑥その他(9)。⑥その他の項目を選択した保護者から得られた9件の自由記述は「絵譜を持ちかえった歌より子どもが気に入っている歌があったから」「最初は興味を示すが、絵譜の存在を忘れてしまう」等であった。

#### 4.2 SCATによる分析

回収した60部のアンケートのうち、33部から絵譜の配布についての、保護者としての感想、子どもの様子、気づいたこと、要望などについて、自由記述欄の記述が得られた。これに4.1.3の追加質問で得られた9件の自由記述を加え、「小規模データに適用可能な質的データ分析方法」(大谷2011)であるSCATの手法(Steps for Coding and Theorization)に基づいて、分析を行った。アンケートの自由記述は一つひとつのテキストデータが小さく、個別性を有しているため、SCATの分析手続きをそのまま用いると、文脈からの言い換えや概念化することが難しい。そのため、大谷(2019)に示されている、類似したアンケートの自由記述を、ある程

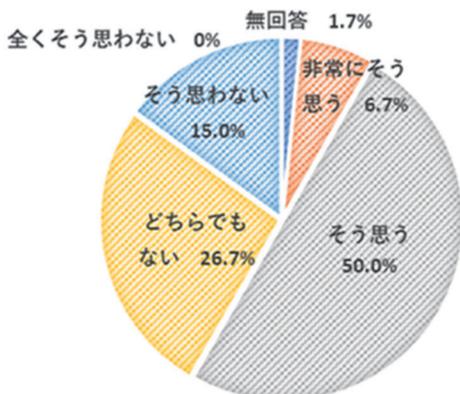


図3：歌唱頻度の増加

度分析した後で「分析に応じてそれを並び替えてグループ化」(p.353)し、再度 SCAT の分析に適応させる手法を採用し、以下の手順で分析を進めた。

- 1: まず「SCAT の分析フォーム」の<1>「テキスト中の注目すべき語句」の欄に、アンケートの自由記述のテキストデータを記入する。
- 2: 次に<2>「テキスト中の語句の言い換え」欄に、<2>のテキストにない語句を用いて、<1>の内容を言い換える。
- 3: その後、<3>「左を説明するようなテキスト外の内容」欄に、<2>に記した内容を説明することのできる一般化された概念、語句、文字列を記入する。
- 4: <4>「テーマ・構成概念」欄では、<1>から<4>の手順に従ってコーディングを行い、そこから浮き上がるテーマや構成概念を分析者自身が生成する。その後<4>を見ながら、各行をグループ化する形で縦方向に並び替える。
- 5: すべての行の<1>から<4>までを検討し直し、最終的に概念化された<4>の全コードを使用してストーリー・ラインを記述する。
- 6: 理論記述を行う。

上記の手続きを踏まえ、子育て家庭における絵譜の受容と作用を視座に類似するテキストを整理し、グループ化した結果、①〈家族間での働きかけ〉②〈絵譜の機能〉③〈絵譜の効用〉④〈家庭の歌唱活動の現状〉⑤〈保護者の期待と要望〉⑥〈保護者の謝意〉⑦〈顕在化した課題〉という7つのグループを生成した。グループ化した「子育て家庭における絵譜の受容と作用」を表1に、「SCAT の分析フォーム」を用いた分析過程の一部を参考資料に示した。以下、本文中の「」は自由記述のテキストデータ、〈 〉はグループ化した言い換え、【 】は概念を示す。〈家族間での働きかけ〉は、「絵を見ながら『一

緒に歌って』や、どんな歌が教えてくれたり」という、絵譜を介して子どもと親、またはきょうだい間に双方向のかつ主体的な働きかけや、協働する活動が生じたことを示しているテキストを包含している。子どもが「…してくれる」という記述からは、保護者が好意的に子どもからの働きかけを受け止めていることが示唆される。これらより、絵譜を媒体として、家族内で音楽を共有するひと時を提供する作用をいくぶんもたらしたことが確認された。

〈絵譜の機能〉としては、月毎に配布される園からの行事予定表や給食献立のように、見えるところに掲示する環境を構成することによって、【絵譜の家庭生活への浸透】や【能動的な歌唱活動の誘発】を促進したことを示している。これは本研究において、絵譜を毎月一枚ずつ紙媒体で配布したことが功を奏した点である。例えば全12カ月分の絵譜を冊子状に綴じて配布した場合、毎月の絵譜を受け取る新鮮さはなく、家庭での掲示や継続的な歌唱の機会の提供につながりにくいと考えられる。しかし、毎月の配布で今月の歌を思い出させるリマインド効果によって、少なくとも配布後に一定頻度の歌唱活動を誘発できたのではないかと考える。

また、〈絵譜の効用〉は、子どもにとって未知の歌を自ら習得しようと試みる、あるいは絵を模倣したり文字を読もうとしたりする等、絵譜が子どもの知的好奇心を刺激したことを示すテキストから生成した。絵譜の月例配布による歌を通じた季節感の感受や、表現に対する積極的姿勢の発現といった、絵譜がもたらす子どもの成長は、副次的効果として保護者にも確認されていることが見てとれた。

〈家庭の歌唱活動の現状〉は、「配布してもらい以前から歌はよく歌っていたので、今まで通り」というテキストに代表される、絵譜の配布に左右されない、家庭での日常の子どもと歌との関わりを示す。ここには、普段の子どもの家

表 1：子育て家庭における絵譜の受容と作用

グループ	概念	代表的なテキストデータ
〈家族間での働きかけ〉	【親子間の楽しみツール】	絵を見ながら「一緒に歌って」や、どんな歌か教えてくれたり のりのりで一緒に歌ってくれる
	【家族への音楽波及効果】	絵譜を持って帰ってくると姉妹で楽しく合奏をする 妹たちに歌を歌って教えてくれる
〈絵譜の機能〉	【絵譜の家庭生活への浸透】	すべての絵譜を子ども部屋に貼り 今月の絵譜が届くと、以前いただいた絵譜も出してきて歌う
	【能動的な歌唱活動の誘発】	「お母ちゃんこの歌知ってる？歌ったげよか」 前に立って文字を追いながら歌っている姿が多々ありました
〈絵譜の効用〉	【興味の喚起】	絵を気に入っていて、いつも真似して絵を描いていました 「これは何て読むの？」と平仮名にも興味をもちました
	【未知の歌が既知の歌】	知らない歌があった時は You Tube で調べて覚えて歌ってくれた 知らない歌だった時、一緒に歌うことで歌えるようになってくれた
〈家庭の歌唱活動の現状〉	【歌のある家庭生活】	配布してもらう以前から歌はよく歌っていたので、今まで通り
	【子どもの生活に根差した歌唱志向】	この一年、家では普段見ているテレビ番組の歌を歌うことが多い
	【子ども主体の歌唱活動】	子ども自身が歌いたい時に歌いたい歌ばかり歌う
〈保護者の期待と要望〉	【横断的・縦断的な学びの連続性への期待】	これからも絵譜を続けてくだされば、家でも園とのつながりをもって歌が歌えるなどと思います
	【子育て支援への要望】	視覚的なもののみでなく、(広い場所のできる)手遊びやダンスなどより音楽をみんなで体感できる何かがあれば
〈保護者の謝意〉	【絵譜との出会いに感謝】	絵譜に触れる機会をいただき、ありがとうございました
	【歌うきっかけの提供】	歌うきっかけを作っていただき、親子で歌う時間が少しでももて嬉しく思っています
〈顕在化した課題〉	【絵譜への興味の非持続性】	4～6月頃までは物珍しさで見せてきたが、それ以降は興味を示さなかった もらってきてすぐは興味をもっても、すぐに途切れる
	【選曲が親子の興味と歌唱頻度に与える影響】	なじみのない曲は家でも歌えなくてすぐ興味をなくしていた 幼稚園で歌っている歌などがあると喜ぶと思います
〈顕在化した問題点〉	【親の等身大の教育力】	親も知らない歌があって教えられなかった 親が知らない歌の時は子どもあまり歌わなかった 子どもは絵譜を見て、楽譜ではなく、絵がかかれた歌詞として捉えていた 返答に困ったのを覚えています
	【未知のものに対する無関心】	1月2月知らない歌

庭での歌唱の趣向や様子についての示唆を含んでいる。

そして〈保護者の期待と要望〉には、「家でも園とのつながりをもって歌が歌えるな」といった、園と家庭とのつながりを保持する手段として、絵譜の継続配布を希望するテキストや、絵譜以外の具体的な希望内容を含む【子育て支援への要望】を包含している。なお、「学生さんが描いてくださっているとは思いませんでした。本当にありがとうございます」「楽しい絵譜をありがとうございます」等の、本取り組みに対する〈保護者の謝意〉も多くのテキストから得られたため、グループ化して示した。

〈顕在化した課題〉としては、【絵譜への興味の非持続性】と【選曲が親子の興味と歌唱頻度に与える影響】が挙げられる。子どもの絵譜への興味のもち方に個人差があることは自然なことであり、想定内の反応ではあるが、絵譜の題材が、より子どもたちの興味に即した馴染のある曲、もしくは、より子どもの気に入る画風やイラストであれば、絵譜への興味の持続効果が助長されることも推測される。または、塗り絵としての機能を併せもつ絵譜等、子どもが手を加えることができるようなバリエーション等も検討の余地があると考ええる。あるいは同一の描手の特定のモチーフ（キャラクター）によるシリーズ化された絵譜等も、子どもの興味を喚起する可能性の、一つの選択肢として考えられる。絵譜の配布によって【未知のものに対する無関心】を示す子どもと保護者が一定数いるのに対し、【未知の歌が既知の歌になる】という結果に至った子どもと保護者もみられた。この両者の差異は、もっとも子どもの未知の歌への探求心の有無にも因ると推測できるが、一方で、親自身の情報や教材の活用力、あるいは家庭における教育力とも関連していると読み取ることもできる。「親が知らない歌があって教えられ

なかった」というテキストに代表される、家庭における指導の限界点は、インターネット等へのアクセスが容易になった昨今、もはや親自身で限定しているに過ぎないのではないかと考える。【未知のものに対する無関心】な態度は、親子間で共有される可能性も否定できないため、選曲やデザインの工夫等で少しでも改善を目指したいところである。

本研究では、各家庭に事前に絵譜の活用についての手ほどきや情報提供を行わなかった。そのため4.1.1の絵譜の印象についての質問においても「使い方不明」という意見や、「子どもは絵譜を見て、楽譜ではなく、絵がかかれた歌詞として捉えていた」、または、子どもからの絵譜に対する質問に対して「返答に困ったのを覚えています」等の、絵譜の機能的役割が十分に発揮されていない様子や、親の困惑もみられた。これらの要因が、親の消極的関与を助長したため、【親の等身大の教育力】として浮き彫りとなったといえる。このような課題を解消するためには、本研究から見えてきた各家庭での絵譜の有意義な活用事例を紹介するなど、保護者に向けた絵譜についての簡易な解説や活用法の、適切な情報提供を行う必要性が示唆された。ここで、グループ化し、再構成したSCATの分析から導かれたストーリー・ラインを以下に示す。

絵譜を家庭に配布する取り組みは、【「今日〇〇したよ」】という園での出来事の報告に加え、子どもが親に【歌ってくれる】、【聞いてくれる】、【教えてくれる】、【見せてくれる】、【誘ってくれる】といった、子から親への能動的な働きかけをもたらした。また、子の【能動的な歌唱活動】に応え、親は子に【歌ってあげる】ことで、絵譜は双方向的な【親子の楽しみツール】としての機能を果たし、【保護者の協力による絵譜の

家庭生活への浸透】の結果、【家族への音楽波及効果】を生み出した。【歌うきっかけの提供】によってもたらされた【歌のある家庭生活】は、【視覚から入る歌への興味】のみならず、【楽譜への興味】、【絵への興味】、【絵や歌に勝る文字への興味】、【楽器への興味】といった【興味の喚起】を誘発し、【絵譜がもたらす子どもの成長】として顕在化した。また、【絵譜の月例配布による歌を通じた季節感の感受】や、【未知の歌が既知の歌になる】といった【教材としての機能】や、【障害のある子どもの音楽的理解を促すユニバーサルデザインとしての機能】といった【副次的効果】も発揮した。

【歌うきっかけの提供】や【絵譜との出会いに感謝】する一方で、絵譜の家庭への配布後、【未知のものに対する無関心】や【絵譜への興味の非持続性】を示す親子の実情もみられた。家庭に持ち帰った時点で、絵譜の使用は親子間に一任され、【親の等身大の教育力】によって、【範唱ありきの親子間歌唱指導】が行われる。親が未知の曲の場合は【既知曲への親和性と未知曲への排他性】から消極的な働きかけとなる等、毎月配布する曲の【選曲が親子の興味と歌唱頻度に与える影響】が大きいことが示唆された。また、【幼児の絵譜の認識】が、各家庭の絵譜の活用の基盤となるため、絵譜は【歌詞の可視化】だけを担い、楽譜としての機能に達しない、【音楽が不在】の認識にとどまるケースもみられた。

子育て家庭における歌唱活動の活性化を目指した取り組みの一環として、絵譜が最大の効力を発揮するためには、【子どもの生活に根差した歌唱志向】を踏まえ、【子ども自身の好きな歌】を自由に楽しむ【子ども主体の歌唱活動】を一義とし、その活動を展開させる一助として絵譜の活用を提案す

べきであろう。さらに保護者の【子育て支援への要望】を踏まえた上で、【園での取り組み内容やその活用についての保護者理解】、園と家庭、あるいは年度を超えた【横断的・縦断的な学びの連続性への期待】に応える枠組み作りが求められる。それらの体制作りによって、【園の歌唱の取り組みに高い関心を寄せる親】が増加し、結果として家庭に一層、歌のある生活がもたらさせる。

これらのストーリー・ラインからは、以下の

①から③の理論が導出された。

①絵譜の配布は、各家庭において歌を歌うきっかけを提供し、親子間、兄弟間での歌唱活動を活発化させる役割を果たした。

②絵譜への興味・関心を切り口として、子どもの知的好奇心や主体的な学びを助長する効果も期待できる。

③幼児の歌唱活動の活性化の手立てとして絵譜を有効活用するためには、子どもの生活に根差し、園の活動との連続性をもたせた選曲や活用、さらに家庭への啓蒙的関わりが肝要である。

## 5 おわりに

本研究は、絵譜を保育教材として子育て家庭に一年間継続的に配布し、絵譜が幼児、保護者らにどのように受け止められたかを検証し、幼児の歌唱活動を促進する保育教材として絵譜の意義や活用方法について検討することを目的としている。調査及び分析の結果、保護者は絵譜そのもの、そして絵譜の配布を肯定的に受け止めていたことが明らかとなった。また、絵譜はその題材曲が子どもの興味と一致する場合には、家庭の歌唱の機会を増加させ、豊かな歌唱の営みを提供する一助となり得たことも確認できた。

絵譜を配布するという営みは、家庭に音楽文化を持ち込むことを意味し、すでにそこにある

家庭の文化、または保護者をはじめとする家族の意識や園児の能動性に一定の刺激を与える機能を有していることを顕在化することもできた。また、絵譜が家庭・幼稚園間における、遊びと生活の連続性を担保し、楽しさと保育的意図を融合させた保育教材としての特性を有していると解することも可能であると考えられる。上述のように、本研究は絵譜が幼児の歌唱活動促進に寄与する保育教材の一つとしての可能性を示したことで、一定の成果を上げたと考えられることができる。

一方で、本実践はK幼稚園の保育計画に準じた取り組みとして取り行うため、筆者らとK幼稚園の間での協議を経て実施されたが、連携外部研究者から家庭への一方向的な教材の配布の取り組みとしての見解のあることも否めない。本来ならば、絵譜を家庭へと提供したK幼稚園の教職員の保育の営みと連動させつつ、保育者への聞き取りやフォローも視野に入れ、保護者とともに養育に携わる者との共同作業として本実践を捉え、その振り返りを行いながら、本取り組みの有効性について総合的に検証すべきである。しかしながら、絵譜の配布をコロナ下の保育実践に取り入れ、実際に保育現場での中心的役割を担った園長はじめ、K幼稚園の教職員の思いや反応については、本稿で十分に検討することができなかった。

絵譜を保育に取り入れた教職員側に焦点を当てた検証と、本研究によって顕在化した課題を引き続き精査し、絵譜のさらなる有効活用の方法を検討することを今後の課題としたい。

#### [引用 (参考) 文献]

Heribert, Grüger (1929). Die Liederfibel und ihre prastische Anwendung. In: Zentralinstitut für Erziehung und Unterricht (Hg), Musikpflege im Kindergarten, Leipzig:Quelle & Meyer, pp.36-44.

Heribert und Johannes, Grüger (1977). *Die große Liederfibel*. Düsseldorf: Verlag Schwann, pp.64-65. (C) S. Fischer Verlag GmbH, 2021.

臼井奈緒・高見仁志 (2017) 「絵譜の源流をたどる—Grüger ドイツ歌曲集“Liederfibel”の日本への受容」. 音楽学習研究, 13, pp.11-19.

大谷尚 (2011) 「SCAT: Steps for Coding and Theorization—明示の手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析方法—」. 感性工学, 10 (3), pp.155-160.

大谷尚 (2019) 「質的研究の考え方—研究方法論から SCAT による分析まで—」. 名古屋大学出版会.

桜井富夫 (1961) 「読譜指導の背景としての絵譜」. 教育音楽小学版, 16 (8), pp.26-27.

長谷川恭子 (2014) 「戦後の小学校音楽科教育における「絵譜」の変遷について」. 実践女子大学生生活科学部紀要, 51, pp.57-65.

The use of picture scores with young children - through singing activities in the home under Corona.

(うすい なお 佛教大学)  
(さとう かずゆき 佛教大学)

【参考資料】「SCATの分析フォーム」を用いた分析過程（一部）

番号	テキスト	①テキスト中の注目すべき 語句	②テキスト中の語句の 言い換え	③左を説明するような テキスト外概念	④テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を 考慮して)	⑤疑問・課題
8	最初は興味を示すが、絵譜の存在を忘れてしまう	最初は興味を示す／絵譜の存在を忘れてしまう	初めだけの興味／絵譜の存在の忘却	興味・非持続／目新しさの消失	絵譜への興味・非持続性	
9	4～6月頃までは物珍しさで見せてきたが、それ以降は興味を示さなかった	物珍しさで見せてきた	物珍しさからの報告	絵譜の新規性	馴化による興味の喪失	保護者も子どもと同じ受け止め方だったのか？
10	子どもは絵譜を見て、楽譜ではなく、絵がかかれた歌詞としてとらえていた。6月の「かえるの合唱」の絵譜を見て、「何でかえるの浮いているの？」と聞かれ、返答に困ったのを覚えています。	楽譜ではなく、絵がかかれた歌詞としてとらえていた	絵譜の認識／描かれた歌詞	未発達の高認識／歌詞の可視化	幼児の絵譜の認識／歌詞の可視化／音楽の不在	絵譜と音楽との結びつきが不十分であったか？
11	もってきてすぐは興味をもっても、すぐに途切れる。親も知らない歌があっただけで覚えられなかった。	興味／途切れる／知らない歌／覚えられない	その時だけ／未知の歌／範囲不可能	興味・非持続／未知の歌／モデルの不在	絵譜への興味・非持続性／範囲ありきの親子間歌唱指導	
12	この一年、家では普段見ているテレビ番組の歌を歌うことが多いのですが、前年度は家で歌っている歌を家でよく歌っていました。やはり友達や先生みんな楽しんで歌うと印象にも残りやすいのかなあと思いました。最近平仮名がやっとなんか読めるかという感じになってきたのですが、絵譜を見ながらだと平仮名を読むことに気がとられて歌うのが難しくなりました。	この一年、家では普段見ているテレビ番組の歌を歌うことが多い／絵譜を見ながらだと平仮名を読むことに気がとられて歌うのが難しくなりました。	コロナ下の家庭における歌唱の傾向／平仮名への興味／歌唱の注意散漫	身近なメディアから影響を受けた歌唱／文字を読み取りたい幼児／複動的な動作の困難	子どもの生活に根差した歌唱志向／絵や歌に勝る文字への興味	
13	子どもが絵譜の絵から歌に興味をもっているように感じました。「どんぐりころころ」といって「あわあわ手洗いのうた」洗面所に今も貼っていて、それを見て歌いながら手洗いをしている。	子どもが絵譜の絵から歌に興味をもっているように感じました／洗面所に今も貼っていて	絵による歌への興味喚起／絵譜の提示	絵譜による歌への興味喚起／絵譜の家庭生活への浸透	視覚から入る歌への興味／保護者の協力による絵譜の家庭生活への浸透	紙媒体での配布のメリットか？冊子状では用途が制限されるのでは。
14	毎月絵譜をもらえらることを、子どもはとっても楽しみにしていました。すべての絵譜を子ども部屋に貼り、いつでも見られるようにしていたので、前に立って文字を追いつつ歌いながら歌っている姿が多々ありました。それぞれが季節歌や曲をイメージしやすい絵譜だったので、楽しく歌いやすく、覚えやすかったのかと感じました。	子どもはとつとも楽しみにしていました／すべての絵譜を子ども部屋に貼り、いつでも見られるようにしていた／前に立って文字を追いつつ歌っている姿が多々ありました	絵譜を楽しむに待つ子ども／絵譜の提示／能動的に歌う子どもの姿	絵譜の家庭生活への浸透／能動的な歌唱活動	保護者の協力による絵譜の家庭生活への浸透／能動的な歌唱活動	
15	今月の絵譜が届くと、以前に比べて絵譜も出してきて歌う姿がありました。絵がとっても可愛く、親子で楽しませてくれました。	今月の絵譜が届くと、以前に比べて絵譜も出してきて歌う姿がありました	慣例化する絵譜／親子で楽しむ	慣例化する絵譜の配布と歌唱	親子の楽しみ／ロール	「楽しませてくれました」という表現は「…してくれ」と同様に好意的受け止めの現れ

